

DBヘッド定着工法 RCS混合構造設計 配筋要領図

※ DBヘッド定着工法を使用する場合は、別途検定結果の確認が必要である。

技術適用の範囲

既製品露出柱脚
商品名
ベースパック
セレクトベース
ハイベース
PINベース
NCベース
ISベース
ジャストベース
フリーベース
スマートベース

構造種別
 ① 鉄骨筋コンクリート(SRC)造
 ② ①のプレキャストコンクリート造
 ③ 柱RC梁S混合構造、柱SRC梁S混合構造
 ④ 鉄骨柱脚と接続する鉄筋コンクリート造
 既製品露出柱脚

使用部位
 ① 梁主筋および柱主筋の柱梁接合部への定着
 ② 記載のない事項は、DBヘッド定着工法 RC構造設計指針(2022年)を準用する。

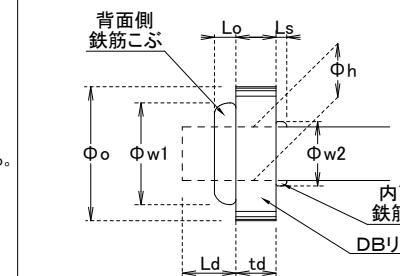
コンクリート
 普通コンクリート 21~60N/mm²

鉄筋
 (鋼種)SD295 SD345 SD390 SD490 (呼び名) D16~D41

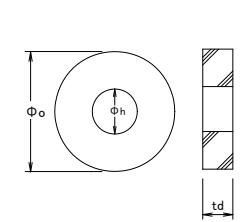
※ 本工法の使用に際しては、株ディビーエスの技術検討を受けることを基本とする。

DBヘッド各部の名称、標準寸法

DBヘッド各部の名称



DBリング各部の名称



各部の標準寸法

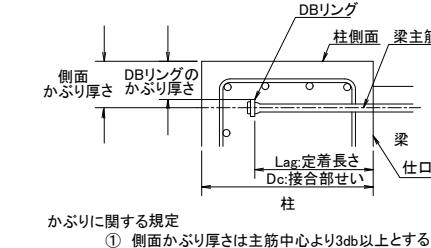
鉄筋呼び名 db	突出長さ L_o(mm)	背面側鉄筋こぶ		内面側鉄筋こぶ		DBリング	
		標準寸法	公差	標準寸法	公差	標準寸法	公差
D16	10	24		11	19	40	18.0 10 5.3
D19	11	29		13	23	45	20.5 12 4.5
D22	13	33		15	26	55	24.0 14 5.1
D25	15	38		18	30	60	27.0 15 4.6
D29	17	44			35	70	31.0 18 5.0
D32	19	48	0~7	38	34.0 20 5.3	32.5	35.5
D35	21			42	85	37.5 21 4.9	39.5
D38	23			46	95	41.5 23 5.2	42.5
D41	25			49	100	44.5 25 4.9	46.0

一般社団法人建築構造技術支援機構 評価 11-03R6 17-05R3

株式会社ディビーエス

愛知県豊橋市豊栄町字東358-1
TEL. (0532)-41-6316

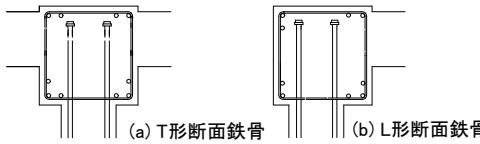
DBヘッドの定着長さ、かぶりの定義



かぶりに関する規定
 ① 側面かぶり厚さは主筋中心より3db以上とする。
 ② DBリングのかぶり厚さは建築基準法施工令第79条で定める値以上とする。
 ※ db: 鉄筋呼び名の値

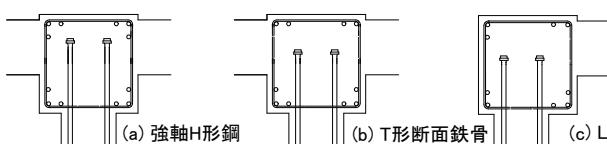
SRC柱梁接合の適用範囲

貫通型定着



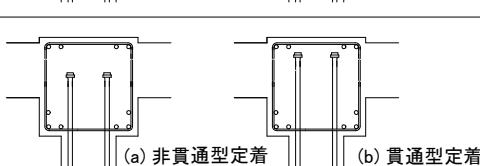
梁主筋と平行な鉄骨ウェブが存在し、かつ、直交鉄骨ウェブへの梁主筋が貫通型定着の場合とする。

非貫通型定着



梁主筋と平行な鉄骨ウェブが存在し、かつ、直交鉄骨ウェブへの梁主筋が非貫通型定着の場合とする。

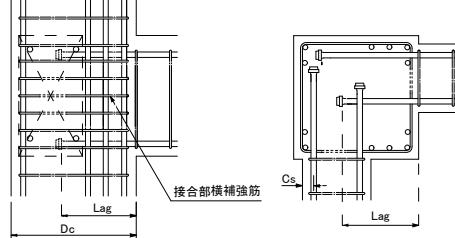
RC指針を準用



梁主筋と平行な鉄骨ウェブが存在しない場合、直交鉄骨ウェブへの梁主筋非貫通型定着、貫通型定着に係わらず、RC柱梁接合部とみなし、RC構造設計指針4章~10章を準用する。

SRC, T形接合部

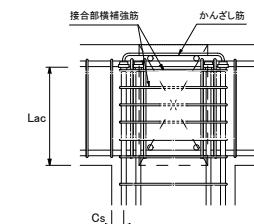
評価書 設計 1-17



① 非貫通型定着の場合、横補強筋比pjwh≥0.2%とする。
 梁主筋定着長は $Lao \geq (Lao(*))$ 12db, $(1/2)d_c$ とする。
 ただし、出隅柱梁接合部では、 $Lao \geq (2/3)d_c$ 且つ鉄骨フランジとウェブに埋められた鉄骨コアの範囲に定着金物を配置し、出隅側では、梁上下主筋定着長さはできるだけ長くする。
 ② 贯通型定着の場合、横補強筋比pjwh≥0.1%とする。
 梁主筋定着長は $Lag \geq (12db, (1/2)d_c)$ とする。
 ③ 梁主筋中心からの側面かぶり厚さCsは、3db以上とする。
 ここにおいて、Lao(*)は一般社団法人建築構造技術支援機構評価11-03R6 RC構造設計指針8.1節により計算される梁主筋必要定着長さである。

SRC, T形接合部

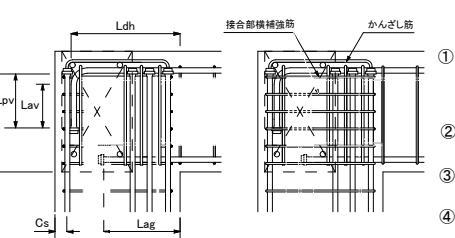
評価書 設計 1-17



① 非貫通型定着の場合、横補強筋比pjwh≥0.2%とする。
 貯通型定着の場合、pjwh≥0.1%とする。
 ただし、柱型主筋の定着金物と梁鉄骨フランジ上面の間に、1組以上の接合部横補強筋を配置する。
 ② 柱主筋の定着長さ $Lac \geq (Lao(*))$ 16db, $(2/3)d_c$ かつ定着金物底面が梁鉄骨フランジ上面を超える長さ以上とする。
 ③ 柱主筋中心からの側面かぶり厚さCs≥2db
 ④ XY方向ともに、かんざし筋比pjvw≥0.15%のかんざし筋を配置する。
 ここにおいて、Lao(*)は一般社団法人建築構造技術支援機構評価11-03R6 RC構造設計指針8.1節により計算される梁主筋必要定着長さである。

SRC, L形接合部

評価書 設計 1-18



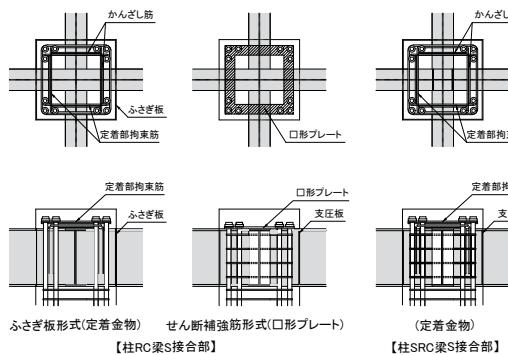
① 梁上端筋定着はAタイプまたはBタイプの定着法とする。
 Aタイプは、余長部曲げ終点からの定着長さLavはJASS5の直線定着長さL2以上とする。
 Bタイプは、余長部曲げ終点からの定着長さLavを10db以上とし先端に定着金物を装着する。
 ② 非貫通型定着の場合、横補強筋比pjwh≥0.2%とする。
 貯通型定着の場合、横補強筋比pjwh≥0.1%とする。
 ③ 梁上端筋の投影定着長さLdh≥(Lao(*), 16db, (3/4)d_c)とする。
 折曲げ後の余長は、RC構造設計指針8.3節による。
 ④ 梁下端筋の定着長さLag≥(Lao(*), 14db, (1/2)d_c)とする。
 ただし、出隅柱梁接合部では、 $Lag \geq (2/3)d_c$ としかつ鉄骨フランジとウェブに埋められた鉄骨コアの範囲に定着金物を配置し、出隅側では、梁上下主筋定着長さはできるだけ長くする。
 ⑤ 接合部横補強筋比、柱主筋定着長さ、側面かぶり厚さ、かんざし筋の規定は、SRCのT形接合部に準ずる。

ここにおいて、Lao(*)は一般社団法人建築構造技術支援機構評価11-03R6 RC構造設計指針8.1節により計算される梁主筋必要定着長さである。

柱主筋定着

評価書 設計 2-5

定着部構造規定



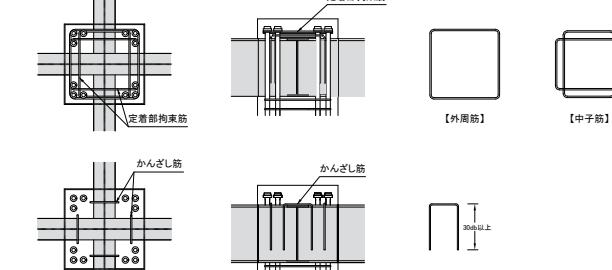
柱主筋定着形式

柱RC梁S接合部、柱SRC梁S接合部のふさぎ板形式とせんせん断筋形式に適応する。

① 柱RC梁S接合部のせんせん断筋形式では、口形プレートと定着金物を併用した柱主筋定着とする。

柱主筋定着
 ① ふさぎ板の厚さは6mm以上、かつ、柱せいDcの1/125以上とする。
 ② せんせん断筋形式の場合、横補強筋比pjwh≥0.2%以上とする。
 ③ 柱主筋の定着長さLacは、梁鉄骨下フランジ下面から21db以上、かつ、必要定着長さLab(*1)以上とする。
 ここにおいて、Lab(*)は一般社団法人建築構造技術支援機構評価17-05R3設計指針4.2節により計算される必要定着長さである。

定着部拘束筋・かんざし筋



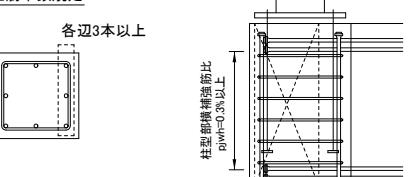
① 柱梁接合部内の梁鉄骨上フランジを跨ぐように、1組以上のかんざし筋を配置する。
 ② X,Y方向ともに、かんざし筋比pjvw≥0.15%のかんざし筋を配置する。
 ③ かんざし筋の足部の長さは30db以上とする。

鉄骨露出柱脚・基礎梁主筋定着

① 柱型部

主筋本数規定

各辺3本以上



横補強筋比の規定

柱型部横補強筋比pjwh≥0.3%以上

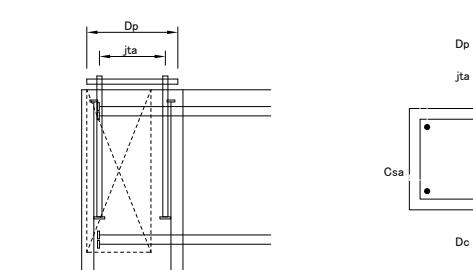
全補強筋量の規定

柱型主筋側面かぶり
 全補強筋量Σ(pjwh·σwy)は満足すること。

柱型主筋の定着長・かぶり規定

柱型主筋側面かぶり
 柱型主筋定着長さLacは、定着部拘束筋の全長を考慮する。

② アンカーボルト



① アンカーボルトの定着はメーカー仕様とする。

② アンカーボルト中心から柱型側面かぶり厚さCsaは4da以上とする。

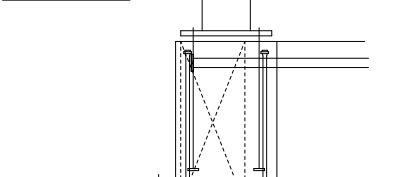
jta: 最外縁アンカーボルト中心間距離

da: アンカーボルト軸部の直径

③ 柱型主筋突出部

柱型主筋突出部の規定

柱型主筋下端



接合部拘束筋の形状

柱型主筋機械式定着板使用方向

梁主筋機械式定着板

梁主筋機械式定着板使用方向

Lag

CBot

3d

5d

10db

10db